

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム つどいの家
(ユニット名)	なごみ館
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県始良町
記入者名 (管理者)	増田 幸子
記入日	平成 19 年 3 月 31 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  
取り組んでいきたい項目  
 ↓

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・地域密着型として、安心して暮らせる環境と住み慣れた地域での生活の継続支援を念頭に置いている。	○	・地域に触れ合うことでその人らしい暮らしの継続ができる支援を作り上げていく。(運営推進会議等)
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・朝夕の申し送り時やミーティングで唱和し日常的に理念に基づいた取り組みが実践されているか確認し合う。		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・運営推進会議等を通じて、自治会便りにホームの催事など広報している	○	・地域の会合参加時に、ホームの実情を報告、説明していきたい
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・日常の生活の中で、近隣の人たちとの挨拶はもとより野菜など差し入れ等をして頂いたりしている	○	・ホームより出かけることは多いが、よりホームに気軽に立ち寄れる環境雰囲気作りを考えたい
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・地域の方々と一緒に救命救急法の学習会の実施(消防署) ・近隣の保育園児やボランティアの皆さんが誕生会等事業所の行事に参加し交流を深める	○	・地域行事への参加(花見・集落掃除・敬老会など)で交流に努める ・事業所の日頃の取り組みや認知症の理解等を学習会の開催などで啓発する機会を持つ

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・運営会議等では認知症の理解についての場を設けている	○	・地域の様々な機会を捉えてホームの機能や認知症に関する学習会等を進めていきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・年一回の評価を職員全員で行うことで、意義や目的の再確認ができ統一性が図れる ・評価結果に基づいた改善策等をミーティングで検討。	○	・評価項目を計画的にミーティング等に取り入れ、日頃より意識づけ、改善を図る
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・出席者への評価結果の報告し、質問、意見等を頂く ・参加メンバーからの情報の提供 ・形式にとらわれず率直な意見がもらえるような雰囲気をつくる	○	・推進会議の全員参加の日程調整
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・現場の実情や課題解決において、担当窓口や電話連絡等で連携している		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・一部の職員が担当窓口になって周知徹底は図れていない	○	・必要な研修等や事業所内での勉強会を通じて、すべての職員が理解、対応できる体制を整えたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・身体拘束と合わせて虐待についてもミーティング等で徹底を図っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時には、事業所の運営理念や重要事項の説明を丁寧に説明している。特に退所に関する取り決めについては、不安、疑問点を説明している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・入居者の普段の会話や家族の面会時において、要望や意見等をキャッチして随時対応、検討して迅速にケアに活かせるようにしている	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・ご家族の面会時に利用者の状況(生活状態心身の状態)を話し合う。特変時はその都度電話連絡を行う ・金銭台帳は月締めにて収支 報告書を領収書添付の上送付する	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご家族との会話の中から、要望等を組取り、また相談等はミーティングにて議題として取り上げ統一を図る	○ ・家族会の設置の検討。 ・ご家族の心境を話していただける雰囲気作りを心掛けている
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・ミーティング等で職員の意見が反映されるように心がけている ・月一回の法人の全体会議で提案や意見の場を設けている	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・入居者の状況や家族の要望等に合わせて、勤務シフトを臨機応変に対応している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・法人内の移動は最低限としている ・各ユニットは固定化しているが緊急時想定し普段から行き来して、顔なじみの関係を築いている ・退職時は引き継ぎの時間を十分にとり、家族等にも面会時紹介を行い影響を最小限抑えるよう配慮している	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修内容に応じて研修の機会を確保する</li> <li>・法人内の研修会への参加</li> <li>・研修報告をミーティング時に行い全職員が認識を統一する</li> </ul>	○ ・事業所での計画的な勉強会の実施
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区の協議会へ研修に参加して交流する機会を持つ</li> <li>・問題点や課題について電話で連絡を取り合ったり、訪問して意見交換を行う</li> </ul>	○ ・地域の同業者同士の利用者の交流や相互評価を取り入れていきたい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員同士の人間関係の把握や勤務状態に気配りして、要因の早期発見や軽減に努めている</li> </ul>	○ ・個々に面談等を行い、軽減につなげる ・相談できる環境づくり。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営者も毎日ホームに訪れ、利用者や職員と会話している</li> <li>・就業規則や人事考課を取り入れ、職員の働きやすい場に取り組んでいる</li> </ul>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人や家族の方が安心されるように、できるだけ面談の回数、時間を設けて、よりよいサービス、方向性をともに考える</li> </ul>	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の想いを傾聴し、本人との思いの違いなど双方にとって何が今必要かその他相談など機会を設ける</li> </ul>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談、連絡時は本人や家族の思いを傾聴し、必要時は、居宅事業所や他のサービス機関へ照会、相談によりよりよい方向性を見出している		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・できるだけ入居前に家族、本人にホームを見学して頂いたり、本人が無理な場合は、こちらから出向いて顔見知りの関係を創る ・入所が緊急な場合は家族との連携のもと本人が不安等にならないように考慮し面会等で落ち着いていただく	○	・事前に面談等を行い、生活歴など把握し生活の場として継続して安心して暮らしてもらえる雰囲気を提供する
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・本人の生活歴から得意な分野を教えて頂いたり、日頃の生活をともに過しながら話を傾聴したり、レク等を通して笑ったり、楽しんだりして頂く	○	・終日一緒に過ごすことで、お互いの信頼関係もできて、思いや悩みも表情でわかり、支え合う関係も作り上げている
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・面会時等を捉えて本人の状態を報告したり、現状に対してご家族とともにケアについて共有に努めている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・面会時には、ご家族にも介護の支援をして頂きました、居室に本人との時間をゆっくり過ごせるようにセッティングをする	○	・本人とご家族の関係が上手とっていない場合は、職員が仲介となり関係作りを気付いている
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・在宅時での近所の人の来訪を家族にお願いしたり、遠方の家族、親戚にはそのつど電話等で連絡を取ってもらったりしている ・ご家族の協力を得て、年賀状、暑中見舞い、お歳暮、お中元を行い、関係の維持に努めている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・入居者の性格等を生活歴から全職員が把握し、利用者同士のより良い関係の構築や、問題発生時は、職員が調整役となり気まづくならないように配慮する		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・他の事業所に移られても、家族からの相談や必要に応じて面会に訪問している	○	・年賀状、暑中見舞い等御挨拶の継続
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・普段の会話や家族との面談の中からきずきを得る ・レクや共同作業時にお互いの会話の中で築きを得る		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居時に本人や家族から生活歴を聴き取り、後にも会話の中から情報を得て、全職員が共有し、その人らしい暮らしねケアに活かしている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・個々の生活パターンを把握し、出来ること、役割を見出しケアに結びつける		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・本人の想いや家族の要望、意見等を交えて、ミーティング等で全職員が検討を行い、その人らしい暮らしを基本に、介護計画に活かす		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・職員間での現状把握と家族・本人の要望をミーティングで検討する	○	・介護計画に変化が見られないときにも予防的な観点から見直しを行う

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個人別に記録をし、身体状況から日常生活での様子など記録し申し送り等で全員が共有できるようにしている	○	・介護計画に沿った介護記録の記入
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・本人の生活の継続性と家族の要望を踏まえて、通院介助、自宅での外泊の支援、買い物の要望への支援。 ・医療連携加算を活かし、利用者にとっての生活の継続の支援	○	・特に外泊等の情報共有のために、現状の状況を記した記録、帰宅時に家族からの報告等に関する様式の作成を実施したい
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・移動図書館の利用や近隣保育所との交流、ボランティアの来所等触れ合う機会を設けている		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・地域の催事への参加や訪問美容を行い支援に努めている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・運営推進会議への参加を機に、情報交換も密になり、関係強化に取り組める		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人と家族の納得のもとで、協力医療機関を主治医としている ・他科受診時は家族と連絡を取りそのつど対応している	○	・家族のみで受診された場合の、結果報告等の様式の確立



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	入居時は契約書を交わしているが、個々の場合は口頭が殆どであるから文章に残すことを検討する
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・入居時に事業者としての個人情報についての取り組み方を説明 ・日常の介護の中で人権・プライバシーの保護の観点から職員同士が声掛け合ったり、ミーティング等の議題として取り上げ徹底を図っている	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・入居者に声掛けして決めていただく ・意思疎通の困難な人には仕草や表情を見極め察する	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・本人の意思を尊重しつつも、時間的などころは職員のペースになっていること多々ある(食事摂取時間、入浴時間)	○ ・日常生活において、可能な限り無理じいしない様支援している
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・衣類等は本人と一緒に選び、必要に応じて声掛け支援している ・行事等では化粧などして楽しんでもらう ・ダンスに種類別に記し本人がわかりやすく整理している	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・できる入居者には、季節の物を下ごしらえして頂いたり、盛り付け等手伝いを一緒に行っている(盛り付け・テーブル拭き・食器洗い等) ・嚥下困難な方々にはお粥、刻み食など工夫して食べていただく ・嗜好調査などから食べたい物を聞いて献立に取り入れている ・外食も定期的にとりいれている	○ ・誕生会など催事や面会時に入居者と一緒に食事楽しんで頂いている
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・本人の希望により買い物に出かけたり、家族の差し入れなどお願いしている ・個々の要望により入居者間のトラブルが起きないように考慮する	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の排泄パターンや時間帯での誘導、声掛けを行っている</li> <li>・夜間帯と日中はおむつ等外したりして工夫している</li> <li>・失敗に対しては自尊心や羞恥心を考慮してさりげなく支援している</li> </ul>		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の意思により時間帯を決めている</li> <li>・拒否される方には無理時にせず、時間帯をずらしたり、他の職員が声掛けしたりして安心して楽しんで入浴して頂けるように配慮している</li> </ul>		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の意向を尊重しつつ、生活パターンを整えて特に昼夜逆転を防止する</li> <li>・職員全員で入居者の過ごし方について意識する</li> </ul>		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活歴より以前の職業を活かした支援</li> <li>①無線機を家族より持っていていただき使っていていただく</li> <li>②着物の着付けをして頂く</li> <li>③血圧計で血圧を図っていただく等</li> <li>・漬物の作り方を教えていただく</li> </ul>	○	・日常生活の中で本人のできることを見出し、張りのある暮らしが送れるように支援する(編み物・短歌)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の能力に応じて所持して頂いたり、預かったりして家族の了解のもと決定している</li> <li>・買い物に出かけた時は本人に支払っていただけるようにしている</li> </ul>		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・散歩、ドライブ等できる限り入居者の要望に答えているが、事業所の都合により後日になるケースも多い</li> <li>・ホームの菜園にて野菜作りをして収穫の喜び等も味わってもらう</li> <li>・一日最低一回は外気に触れるように心がけている</li> </ul>	○	・身体の重度化された入居者は外出の機会が少なくなりがちである家族の協力を得ながら機会を増す工夫を検討したい
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の意向や家族との協力のもと個々に対応している(墓、自宅訪問)</li> </ul>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・遠方の家族等にお祝時等に電話や手紙を書いて関係の継続に努めている ・本人の要望時にはそのつど対応している		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・面会時間を設けず、来所されたら気軽に過ごしていただけるように場をセッティングしたり、食事等を一緒に取って頂いたりしている		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・拘束の意義を職員全員が認識し、また職員間で声掛けして禁止に取り組んでいる		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・入居者のその日の状態を申し送り等ですべての職員が把握する ・職員同士がこえを掛け合って、外出を察したら一緒にさりげなく同行する ・職員数が少ない時間帯等は状況に合わせて対応している		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・本人の仕草等でサインを察知してさりげなくフォローする ・夜間帯は定時に巡視したり、訴え等には迅速に対応できる体制をとっている ・入居者と職員が同一空間にて見守り、作業するように努めている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・一人ひとりの状態、必要に応じて対応している		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・個々の入居者の状態を把握し、申し送り等で全員が周知し未然防止に取り組んでいる。(ヒヤリハットを記録し全員で確認。認識をもつ)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・消防署の協力を得て救命救急の講習等行っている ・緊急時の対応も主治医と24時間体制で連絡が取れる体制とし、個々の状態での初期対応も主治医の教を頂き全員が認識する	○	・個々の症状についての初期対応についてのマニュアルの作成
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・避難訓練を定期的実施し、避難経路や未然防止について職員や入居者と一緒に確認している	○	・夜間帯の訓練の実施及び地域の消防分団、地域ぐるみの訓練を計画する
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・入居時に家族に説明して理解を得る ・入居者の状態変化に対応して家族とそのつど連絡、対応策を確認している		
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・日常の個々の状況も把握し、バイタルチェックや食事量、排泄、動作に気配りし状態変化を早期に発見し対応している		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬状を個々にファイ化し、確認できるようにしている ・処方が変わった時は申し送り等で確実に伝え全員が内容把握できるようにしている ・全職員で配薬を行うことで理解できている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・個々の排泄記録を記入して観察している・排泄時腹部マッサージで促している ・自然は排便が困難な場合は、主治医と連絡の上薬を処方する ・牛乳や適度な運動を取り入れ工夫している		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後本人の能力に応じて。声掛け、一部介助している ・義歯は就寝前洗浄している ・口臭や嚥下性肺炎予防の観点から口腔ケア支援をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事摂取量は個別に解りやすく記録に残している</li> <li>・入居者の好みについては家族からの情報をもとに個別に対応している</li> <li>・栄養士の献立を参考にしている</li> <li>・嚥気をつけている下障害の方々には、症状に応じて工夫こらして栄養のバランスに気をつけている</li> </ul>		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症に関しては、マニュアルを作成し、勉強会や主治医の意見等も考慮し対応している</li> <li>・普段から家族へ呼びかけを行ったり。特に流行時には体調不良の方の面会をお断りしている</li> <li>・外出から帰宅時は必ずうがいや手洗いの励行に努めている</li> </ul>		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・厨房製品は定期的に漂白し清潔に努めている。</li> <li>・賞味期限も確認しなるべく在庫しないように心がけている</li> </ul>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入りやすいように玄関口に季節の花など置いたりして家庭的な雰囲気を醸し出している</li> </ul>		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者が自分の力で過ごせるように必要などころには手すりを取り付けたりして取り入れてる</li> <li>・季節感を感じていただくためにその時々意識的に採り入れている</li> <li>・壁画等も入居者と職員が一緒になって季節の飾り付けや手芸に取り組んでいる</li> </ul>	○	・食卓台に草花を飾り、季節を感じて頂いている
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソファ置いたりして少人数で過ごせる空間を作っている</li> </ul>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・本人、家族には入居時に、使い慣れた品物は出来るだけ持参して頂くよう声掛けをしている。入所後もそのつどお願いしている(テーブル・椅子等)		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・フロアは定期的に換気し、空調調整も温度計で監視して適温に努めている ・居室は入居者の要望によりそのつど対応している		
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・生活経路は整理整頓して、要所々には手すり等を設置し、自立と安全面から配慮し、環境整備に努めている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・入居者の状態に合わせて、本人にとって解りやすい言葉、目印で混乱しないように配慮している		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・玄関先や中庭に花々など植え込みや季節感を味わっていただく ・ベンチを置いて茶話時間や外気浴を楽しんでいただく ・菜園で野菜作りの教え、収穫の喜びを感じていただく		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホームは、自然に恵まれ近隣に違和感を感じさせない建物です。入居者さまの生活史を把握し、これまで培ってこられた経験や知識を尊重し、特に季節感を大切に感じていただいています。玄関先には四季折々の花々を栽培し、触れることで香りやその季節の風情を感じていただき、ホーム裏の少しばかりの菜園では、皆様とご家族の協力の下季節の野菜を栽培し、成長や収穫の喜びをともに感じていただきます。また、健康面におきましては、母体の医療法人を始め、協力病院と緻密な連携の下24時間体制で健康管理にあたり、対応し、専門の職員が皆さんに安心して暮らしていただけるよう日々努めています。